

総合教育センターだより

130号 令和2年9月発行 山梨県総合教育センター

「夏期研修会を終えて～新しい研修スタイルの模索～」

新型コロナウイルス感染症の第二波ともいえる感染再拡大が懸念されるなか、7月27日（月）から8月20日（木）までの15日間にわたる「夏期研修会」が開催されました。センターでは年度当初より、コロナ禍における「夏期研修会」の在り方について様々な議論を重ね、感染症対策に万全を期すこと、先生方の研修の機会を確保すること、学校現場への負担をなるべく軽減すること、の三点を優先検討項目として企画準備を進めました。検温をはじめとする健康観察を行う研修本部の設置、全席を指定にした上で換気と研修後の消毒を行う会場の管理、また、大規模な研修では会場を分けたサテライト研修などに取り組みました。今年度の「夏期研修会」では、予定された163本の研修のうち、センター等に集合して実施した研修は120本、配信資料の視聴等による代替実施が16本、中止となった研修が27本となりました（いずれも延べ数）。また、代替実施の研修も含めた延べ出席者数は2318人となり例年の4割程度となりました。夏季休業の短縮により、授業をはじめとする校務と研修が重なるなど、現場の先生方にはご負担をおかけした場面も多々あったかと思いますが、参加された先生方には様々な感染症対策へのお願いに快くご対応いただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。研修後のアンケート等で先生方から寄せられたご意見やご要望を踏まえ、コロナ禍のなかでのセンター研修のあるべき姿を来年度に向けて引き続き検討して参ります。

「初任者研修会(4月から8月まで)を振り返って」

今年度は、昨年度より54名多い272名が初任者研修の対象者です。年度始めは新型コロナウイルスの感染が広がり「緊急事態宣言」が発令され、初任研もセンターで一堂に会しての開講式が開けないという非常事態となりました。本県では、本来ならば「初任研の弾力化」が今年度から始まり、研修自体も大きく様変わりする予定でしたが、その説明も直接先生方にできないまま、更に感染症対策による変則的な実施となり、初任研担当者一同困惑しました。そこで考えついたのは、センターのホームページから初任者に視聴していただく代替研修です。講師の先生方の動画撮影や音声収録を行い、4月24日に1回目の研修を開催することができました。この後、2回目の研修もこの方式で乗り切り、ようやくセンターに初任者を迎えて実施できたのは6月5日でした。分散集合、健康観察用紙の提出、受付や表示の工夫、会場を分散したサテライト研修の実施、マスクの着用、消毒の徹底、密にならない座席配置等、全所体制で初任者を迎え無事終了したときの安堵の気持ちは今でも忘れられません。

しかし、残念なこともありました。それは、県立八ヶ岳少年自然の家での宿泊研修や特別支援学校の参観等、所外で予定していた研修を見送りにせざるを得なかったことです。これは秋以降に予定されている研修にも共通しますが、「百聞は一見に如かず」「話し合いによる共有」は、最も優れた理解の方法であり、研修においても非常に大切なのだと改めて実感しました。ICTの力を借りながらも、やはり直接対面する研修の意義を感じずにはいられませんでした。秋以降の初任研は、これらの視点もできるだけ加味し工夫を重ねながら実施する予定です。

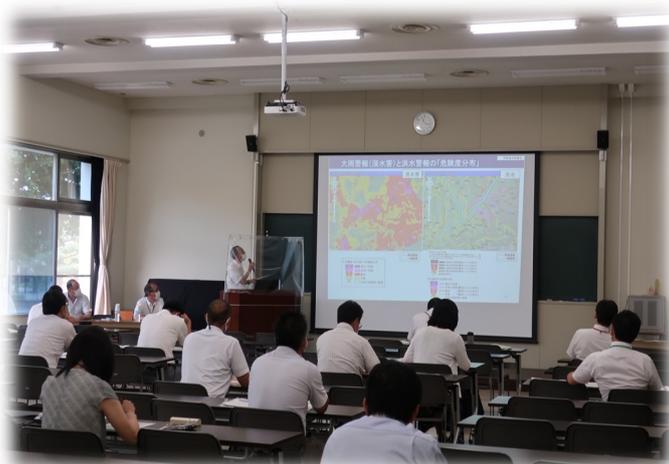
コロナ禍を嘆くだけでなく、この状況下で苦勞しながら学び、身につけたことを初任者が一つでも多く現場に還元してくれることを期待したいと思います。

初任者研修会の様子



防災教育・危機管理研修会

本研修は、義務教育課田邊靖博指導主事、甲府地方気象台気象情報官中村修先生、土砂災害気象官柳伸一先生を講師に招聘し、「山梨県学校防災指針」を活用した災害対策力の向上に向けた研修会として実施されました。前半の研修では、田邊指導主事から「学校版タイムラインと避難確保計画の作成」について、教職員が非常災害時に担う役割や行動において、事前の計画や準備、そして日頃の心構えが重要であることなど、実際に山梨県学校防災指針を用いながらご講演いただきました。後半の研修では、甲府地方気象台の中村、柳両先生より「防災気象情報の効果的な活用について」それぞれの専門的な立場から、実際の洪水警報や土砂災害の危険度分布が気象庁のHPから確認できることなど、気象台が発表する防災気象情報の入手方法、実際の映像などを交えながら土砂災害発生状況等についてご説明いただきました。



当初は、実際のタイムライン作成の演習が計画されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、演習が行われなかったことは残念でした。一方で、受講者からは、「気象庁から出されている各種気象データの見方や活用法について理解することができた。」「大雨（洪水や土砂災害）の避難等に対応できる「『学校版タイムライン』や『避難確保計画』の作成が重要であることを実感した。」等の感想があり、当初の研修目的を達成することができたと考えています。

ビデオ編集のためのiPad iMovie活用研修会



iPadのビデオ編集アプリiMovieを用いて、授業や特別活動等における効果的な活用方法について理解を深め、ICT活用指導力の向上を図る目的で実施しました。ビデオや写真の編集方法だけでなく、KeynoteやClipsなど他のアプリをiMovieと連携させたり、PCや書画カメラ、Apple TV、それぞれの画面を切り替えることにより1台のプロジェクターで映し出したり、活用の幅が広がる内容も取り入れて行いました。

<受講者アンケートより>

- とても実践的でこれからの教育活動で生かせる内容でした。
- 様々なICT機器を使用して説明いただいたので、分かりやすかったです。
- パワーポイント+iMovieを活用しての授業を導入できればいいなあと思っています。

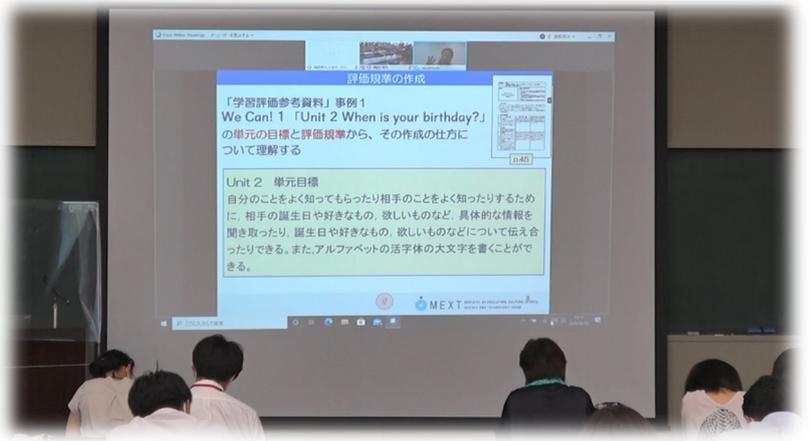
「特別支援教育におけるICT活用研修会」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が主催する「特別支援教育教材・支援機器等地域展示会」と連携した研修会を実施しました。障害のある子供のICTや支援機器に関する研究開発に携わる、研究所の杉浦徹先生、土井幸輝先生に講師をお願いしました。感染症防止のため来県ができない状況になりましたが、ICTを活用した動画による講義、ZOOMによる講師との質疑応答、タブレットを使った教材作成の演習により研修を深めました。通常の学級に在籍する子供たちも含め障害がある児童生徒へのICT機器等の活用にあたっては、機器を使用することで子供たちが学習や生活が円滑に行うことができるのかが重要な視点であることを学びました。演習では、短い時間で簡単に作成できる視覚支援教材として「文字の書き順」などの教材作成に取り組みました。



小中高外国語教育連携研修会

文部科学省視学官直山木綿子先生を講師として、外国語教育における小学校と中学校、高等学校の具体的な連携の在り方について学ぶ研修会を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、山梨に来県できなくなってしまった直山先生にオンラインで、演習も交えながら双方向型の講義をしていただきました。午後には、上野小学校の渡邊菊美先生、八田中学校の岩田恵子先生、身延高校の湯泉英行先生の3名の先生方から実践発表をしていただきました。その様子を別会場にいる小学校の初任者にもサテライト配信を行いました。各学校における小中高連携の地道な実践の積み重ねに対し、直山先生より高い評価をいただきました。参加された先生方からは、「直山先生が来られなかったことは残念であったが、リモートでも研修を開催してくれたことに感謝している。」「評価について詳しく知ることができてよかった。」「小中高の連携を自分の学校でもがんばっていきたい。」など、たくさんの肯定的な意見をいただきました。初めてのオンライン研修会の試みでしたが、講師の先生方、参加されている先生方、全員の協力のおかげもあり、とても有意義な研修会となりました。



授業に役立つ国際教育
「山梨からグローバルな世界を捉える」研修会



外国語科CAN-DOリストに基づいた評価を学ぶ研修会



子どもと教師の成長を支える教育評価
～OPPシートによる学習・指導と評価の一体化～研修会

夏期研修会の様子



クラスづくりに生かす特別活動研修会



中高 国語科論理的思考力を高める研修会



「リーダー研修 教職としての素養を学ぶ研修会」

—教員としての使命感・責任感—

学校の中でリーダーとして活躍する先生方に、もう一度教員としての使命感・責任感について考えていただくという目的で、「リーダー研修 教職としての素養を学ぶ研修会」を8月18日（火）に開催しました。講師には、昨年に引き続き日本大学文理学部教育学科教授の広田照幸先生をお招きし、約60人の先生方が受講しました。

広田先生からは、子供たちに「社会のルールを守る存在」ではなく「社会のルールをつくる・変える存在」になって欲しいという思いが大切であり、社会をつくる子供たちを育てていかなければいけないことをお話いただきました。また、「問いを立てる力」「答えを求める力」についても演習を交えながら、分かりやすく教えていただき、子供たちに授業をする際にどんなことを考えていけばよいのか、どのような手立てが必要なのか、考えさせられる場面が多くありました。

受講者からは、「受講前は本研修の目的や内容に対して、難しく重いイメージを抱いていた。しかし、講師の広田先生が、『教育の目的』にはじまり、子供たちが育っていく未来社会と教育との関係までわかりやすくかみ砕いてお話してくださったり、今子供たちに求められている『問いを立てる力』や『答えを探す力』について、子供たちの立場になって実際に体験したりし、深く考えることができるように研修が構成されていた点がよかった。」「これまでの研修会とは違った視点での講義を聴くことができ、新たな考え方を持つことができ、大変良かったと思う。」「使命感・責任感を持った教員の在り方について考える機会となった。教員の質が上がれば、教育の質も上がる。このことを肝に銘じ、すべては目の前の子供たちのために、自己の研鑽に励んでいきたい。」といった感想が寄せられました。



特別研修会Ⅱ（兼 総合教育センター研究大会）

日時：令和3年2月18日（木）13：20～14：30

講師：ふじ内科クリニック 内藤いづみ 氏

演題：読書から学んだいのちの原点～在宅ホスピス医からのメッセージ～

内藤いづみ先生より講演に先立ちメッセージをいただきました。

「本は私にとって切り離せないものです。中でも将来にわたって影響を与えたのが、10歳前後の時に読んだ本。多種多様な物語を読んで学んだのは、人の悲しみや喜びに国境はないということ。本を読むことは、相手に共感する力を養うことになる。トータルの人間を見る力を本から教わりました。」

総合教育センター2019年度一般留学生の声

「学校現場に戻って」

笛吹市立八代小学校 赤尾若菜

今年度は3学年の担任になりました。社会、理科、毛筆、リコーダー、総合的な学習、外国語活動、と3年生になると初めて出会う教科や活動があります。それらとの出会いを楽しんでいる子どもたちを前にし、「この子供たちにしっかり力をつけてあげたい。」と身が引き締まりました。昨年度は6年生の国語で、三角ロジックを取り入れた実践を行いました。今年度は中学年でも三角ロジックを使い、そのよさを感じられるよう、今は試行錯誤をしながら国語で実践を試みている段階です。まだ課題はありますが、子どもたちの「できた！」という笑顔が見られるよう、さらに工夫をしていきたいと思います。

「現場での実践を通して感じること」

甲府市立池田小学校 野呂瀬陽子

私は今年度3年生の担任と研究主任をしています。現場に戻って感じるのは、研修する前の自分との違いです。研究していた国語だけでなく他の教科においても、その単元だけでなく他学年とのつながりや系統性を考え、ここで身につけさせたい力は何かを意識して授業を進めています。私の意識が変わったことで、子どもたちもより「学びの実感」をもつことができているように感じます。また、昨年度の自身の研究を振り返りに、研究主任として自校の研究の構想を考え進めています。センターでの研修は、教員としての資質・能力をより高めることのできた1年間だと感じています。これからも研修の成果を現場で生かせるよう、取り組んでいきたいと思います。



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田1456
電話 055-262-5571
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 廣瀬 浩次
発行日 令和2年9月30日